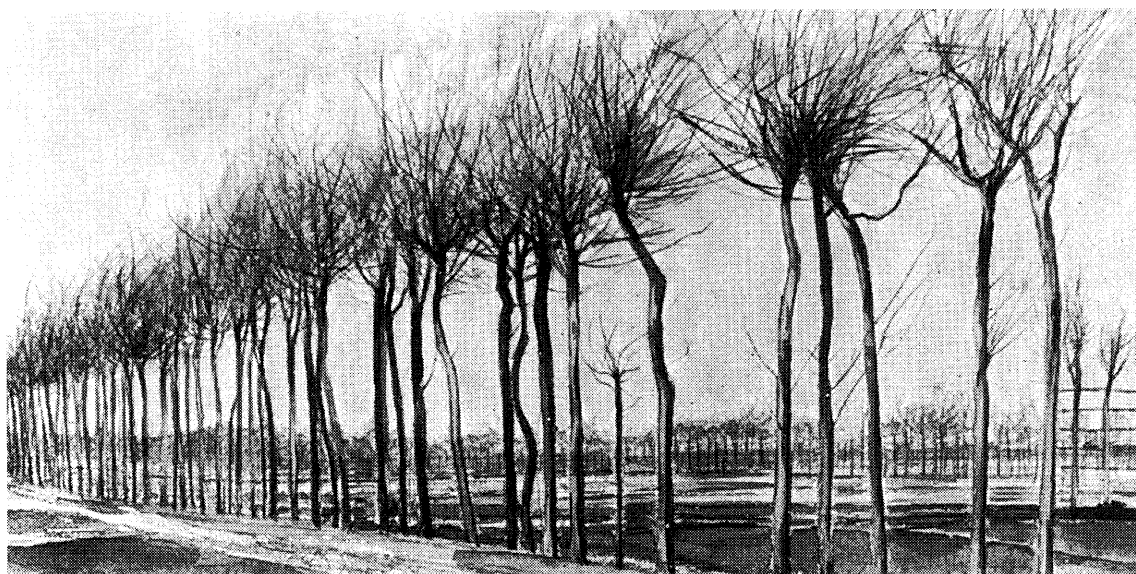


臥龍が丘は緑なり

村松高校東京同窓会会報

平成14年(2002)大会号



…蒲原のハザ木…

村松高校東京同窓会 第45回大会にあたり

大会実行委員長 鈴木多喜男（高4回）

今年、東京同窓会が第45回目の総会を迎えるにあたり、嬉しさの中にも大変感慨深いものがあります。

今日まで脈々と受け継がれてきた東京同窓会が、今後一段の発展を遂げるためには会員の皆様の更なるご協力と、幹事諸氏の情熱と一層の努力をお願い申し上げたく存じます。

私達を取り巻く内外の環境は激動の様相を示しておりますが、こんな時代だからこそ肝胆相照らす仲間と話し合いながら明日の活力を得、心の平穏を取り戻す同級、同窓の会が大切に思われてなりません。

歳月が流れ環境は変われども故郷への想い、母校である松高への想いは永遠に不変です。

東京同窓会の輪を広げ、故郷で見たあの美しい虹がその上に輝いて、会員相互の結びつきが益々強まることを念願しております。再会する度にお互い何時までも若々しく元気な姿でいるためにも、私が推奨したいのは「運動で汗をかく」「大勢の人と話をして恥をかく」「文を書く」の『三かく運動』で、脳の活性化と健康増進には非常に役立ちます。今年も東京同窓会の会場で「いや～元気ですか!」と楽しく声を掛け合ってお会いしたいものです。

終りに、東京同窓会の益々の発展と、会員の皆様のご健勝ご活躍をお祈りいたします。

東京同窓会 第45回大会 プログラム

日時 平成14年6月8日（土） 正午12時より 会場 東天紅・上野店

◎第一部 総会

- ・ 東京同窓会長挨拶 会 長 佐伯 益一
- ・ 学校長挨拶 校 長 杉原 雅昭
- ・ 平成13年度、経過報告 総務委員長 斉藤 和男
- ・ 平成13年度、会計報告 財務副委員長 片柳 ムツ
- ・ 会計監査報告 監 事 塚田 勝
- ・ 役員改選
- ・ 新会長挨拶

◎第二部 懇親会

- ① 乾杯・挨拶 村松高校同窓会長 伊藤 淳一
- ② アトラクション 演歌歌手 杉 幸子
- ③ 抽選会 篠川 恒夫、大橋 貞夫、他
- ④ 校歌・応援歌 全 員
- ⑤ 手締め 副会長 伊藤 勇五
- ⑥ 閉会挨拶 大会実行委員長 鈴木多喜男

いま、学校は

新潟県立村松高等学校長
杉原 雅昭



東京同窓会の皆様には益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。昨年6月の「ニューオータニ イン トーキョー」での同窓会総会にお招き頂き大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。これで二回出席させて頂きましたが、皆様方が「ふるさと」を離れて母校を想いつつ青春時代を語らい、大活躍されている様子に触れさせて頂き、いつも感動しているところです。

また、昨年度は創立九十周年式典が厳粛な中にも盛大に開催されましたが、皆様方から多くのご支援を頂きましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、本校の状況をご報告いたします。

13年度の進路状況は、進学では大学は日本大、国学院大、立正大等16名、短大は県立女子短大等9名、医療系専門学校10名、他の専門学校66名で前年度を上回ることが出来ました。また、過年度卒では新潟大等4名でした。就職は一層厳しい状況で54名の就職で84.4%の内定率でした。本校発展の課題の一つとして進学希望者の達成と進学率の向上を考えています。希望者そのものが少ないという状況の中ですが、進学意識の啓発と進学体制の強化に努めてゆきたいと思っています。

部活動での活躍は、やはり前年度以上の成果を収めてくれました。運動部では6月の県総合体育大会出場者が例年になく多く、体育館での壮行会では選手がステージに溢れんばかりでした。

陸上部では下越地区大会で男子個人3千MSC三位をはじめ、5千Mで入賞また女子個人やり投げで入賞の選手他出場しました。

サッカー部は下越大会で念願の優勝を果たしましたが、県では惜しくも惜敗しました。剣道部は下越大会で男子団体三位、個人三位他出場し県では男子団体ベスト16の成果を収めました。他に男子バスケット部、柔道男子団体・個人、バドミントン男女の各団体が出場しそれぞれ健闘しました。

秋季の大会では、陸上部が新潟下越地区大会で男子個人3千MSC優勝したのをはじめ、多くの選手が入賞を果たし、県高校駅伝でも十七位の成績を収めることができました。剣道部は下越大会で男子団体優勝し、個人でも二、三位を占めました。また、全国予選選抜を兼ねたBSN杯ではベスト八位まで進出し著しい成果を収めるようになりました。

文化部では特に伝統あるカメラ部がまた好成績を収めてくれました。全国高等学校総合文化祭(福岡大会)個人の部の「作品」で文化功労賞を、「撮影会」では最高の大賞を受賞し新潟日報でも紹介されました。更に、全国高校写真選手権(北海道)では団体で特別賞を受賞するなど活躍しました。同窓の石本教諭の熱心な指導によるものです。

次に、本校の今後を大きく占うであろう「中長期高校整備計画骨子(案)」が県教育委員会から3月に出されました。これは15年度から25年度までの計画骨子案となっています。これによれば、学校、学科等の在り方については次のような方向で整備をすすめるとされています。

- (1) 普通科及び他の専門学科を設置する高校は新たな学科の新設等、各学校の特色化を進める。
- (2) 総合学科を設置する高校は通学できる範囲に1校は設置し、系列の新設、再編成を進める。
- (3) 農業、工業、商業、水産、家庭の学科を設置する専門高校は学校の統合や学科の再編等を進める。
- (4) 単位制高校は生徒の幅広いニーズに応えるため設置をすすめる。
- (5) 中高一貫教育校は設置を検討する。

これらを踏まえた、新津・五泉学区の学科別学級数の推移は、平成13年度は普通科26職業科7の計33学級17年度までは普通科25、職業科系4の計29学級、25年度までは普通科19、その他学科1、総合学科6の計26学級となっています。そして18年度から25年度までの検討事項として、

- (1) 統合による総合学科の設置
- (2) 特色ある学科の新設

が挙げられています。

このような中で本校の普通科は現在の6学級が17年度までは現状維持とされていますので、当面、新津・五泉学区の普通科高校として期待されているのではないかと考えています。このようなことから、地域の皆様方のご支援を頂きながら益々の発展のための一層努力してゆく決意でいます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました

① 平成13年度・会費納入された方（敬称略）

◎旧中の部（36名）

相田和平、相田幸四郎、相田忠亮、伊藤秀男、伊藤勇五、五十嵐一郎、市川薫平、伊藤達郎、熊倉 悟、亀嶋 謙、加藤三代太、北沢卓夫、笠原健二郎、黒井伊作、團順一、佐久間精一、佐藤豊夫、斉藤和男、斉藤朝之、酒井 忠、斉藤誠七郎、坂井太郎、佐伯益一、寺田徳隣、成海正弘、西山莊平、芳賀健一、福原平八郎、藤原良造、松尾 貢、水尾広吉、武藤三郎、山口三郎、吉田正平、吉田公男、芳原英男

◎高校男子の部（105名）

青木 猛、畔田昭義、新井康夫、青木敏和、荒川 守、阿部 勇、岩倉富栄、伊藤 馥、石本芳雄、石黒四郎、稲毛越郎、石川 滋、遠藤 昭、大島惣四郎、大橋貞夫、岡 靖、大西範孝、小笠原一憲、大橋俊夫、岡村嘉志、岡田見津夫、金子鶴男、笠原大四郎、笠原久、笠原静夫、亀山知明、川合敏男、加藤清治、川村莞爾、神田弘毅、杵渕政海、雲村俊徳、熊倉富治、倉田健五、剣持常泰、小柳 実、小日山芳栄、小出博三、近藤英洋、近藤毅夫、斉藤慶五、斉藤正義、佐藤武久、佐藤栄治、佐藤 克、佐藤匡秀、佐藤 昶、佐々木秀和、沢井 昭、篠川恒夫、佐々木秀三、沢出昶允、下野文幹、新保 優、鈴木健司、鈴木多喜男、鈴木忠雄、鈴木輝雄、関谷雄三、瀬倉 薫、関塚 豪、高地 勝、高岡雄三、滝沢信喜、高山幹雄、田代信雄、高久貞夫、高地 彰、高岡英治、弦巻隆輔、塚田 勝、弦巻 等、土田 猛、鶴巻 浩、坪谷次郎、鶴巻嵐三、弦巻一郎、中川善隆、中村雅臣、二宮文三、根本俊夫、長谷川吾一、羽賀道信、廣田達衛、長谷川宏一、長谷川五郎、長谷川洋夫、増田訓英、松尾真一郎、松尾 了、松尾保司、間藤謙一、宮沢正由、丸山貞次、武藤正昭、村川五郎、村川恭平、山崎豊吉、八木又一郎、梁取正通、梁取錦二、山崎輝雄、山田俊治、古井 清、渡辺八郎

◎旧高女の部（15名）

石井洋子、一氏愛子、内田道子、岡本和子、大橋也子、大橋玉枝、小林早月、近藤昌子、佐藤 治、佐藤玲子、新保清子、鈴木節子、田村ミツエ、藤崎トヨ、堀 和子

◎高校女子の部（56名）

安達繁子、荒井るり子、飯利 幸、市川俊、五十嵐八端、緒方康子、大嶋エミ、岡部ユキ、大橋マツエ、大竹和子、大野靖子、緒形美恵子、小沢幸子、片柳ムツ、加藤久子、神田正子、木村孝子、久我マキ、桑原トム、黒川睦子、小島典子、近藤燦子、斉藤英子、斉藤弘子、佐久間順子、佐藤綾子、佐々木恵美、佐藤八重、島田淑子、白石キヨ、鈴木則子、高岩美江子、田川百合子、高岡五百子、高尾桂子、高浜つる子、出口テル、寺山征子、徳永道子、中川米子、中島和子、中村エツ、波多ミサエ、馬場淑子、治田レイ子、樋口綾子、深見洋子、榎本久子、松本知子、真水道子、宮腰ヨイ、向山律子、八巻マサ子、横溝田鶴、山西愈佐子、渡辺厚子

男子=141名 女子=71名 合計=212名

（平成14年分会費前納された方=5名）

亀嶋 謙、北沢卓夫、佐藤栄治、高岡勇三、西山莊平

② 平成13年度・寄付された方（敬称略）

◎男子の部（33名）金額=107,000円

10,000円 近藤晴彦（新発田市）
10,000円 二平一男（五泉市）
5,000円 渡辺好雄（村松町）
3,000円 中村市雅一郎（新潟市）
2,000円 須佐平助（新潟市）
7,000円 笠原静夫、川合敏男、斉藤慶五、滝沢信喜
2,000円 酒井 忠、芳原英男、吉田正平、武藤三郎、伊藤秀男、黒井伊作、西山莊平、吉田公男、杵渕政海、斉藤正義、梁取正通、二宮文三、鈴木健司、佐々木秀三、瀬倉 薫、畔田昭義、大橋俊夫、武藤正昭、小日向芳栄、佐藤 昶、中村雅臣、長谷川五郎、沢出昶允、増田訓英 1,000円 土田 猛

◎女子の部（8名）金額=27,000円

7,000円 山西愈佐子
6,000円 大橋玉枝
4,000円 木村孝子
2,000円 岡部ユキ、深見洋子、新保清子、横溝田鶴、高岡五百子

合計41名 134,000円

平成13年度会計収支決算書

(平成13年4月1日より平成14年3月31日まで)

新潟県立村松高等学校 東京同窓会

収入の部 (単位: 円)	支出の部 (単位: 円)
特別会計 第44回大会収入 (No.32既報) 872,000	特別会計 第44回大会支出 (No.32既報) 818,421
一般会計 ① 第44回大会余剰金 (No.32既報) 53,579 ② 平成13年度 会費 636,000 男子 141名 423,000 女子 71名 213,000 計 212名×(3,000) ③ 平成13年度 寄付金 131,000 男子 34名 107,000 女子 8名 24,000 計 42名 ④ 平成12年度 会費 6,000 女子 計 2名 6,000 ⑤ 平成12年度 寄付金 3,000 女子 計 1名 3,000 ⑥ 受取り利子(14・4/1 現在) 313 ⑦ 重複会費納入(H14年度会費に充当) 15,000 男子 計 5名 15,000 「亀嶋、北沢、西山、高岡(雄)、佐藤(栄)」 ⑧ その他の収入(立替金処理) 1,000	一般会計 ① 会議費(常任幹事会、幹事会) 167,082 ② 通信費、送料 35,048 通信費(切手、ハガキ) 23,300 印刷費(振込用紙共) 6,672 封筒代 2,184 一般送料 2,892 ③ 会報発行費(年2回) 564,403 編集会議費 94,388 No.31印刷費 141,750 同 送料(第一印刷) 42,890 No.32印刷費 168,000 同 送料(〃) 59,790 封筒印刷費(〃) 42,000 資料提供謝礼(4名) 15,585 ④ 備品費(事務局住所ゴム印) 9,400 ⑤ 会費払込み手数料 10,010 ⑥ 送金手数料 2,200 ⑦ 母校創立90周年記念参加費 41,330 ⑧ 慶弔費(弔) 10,000 ⑨ 雑費(県人会報、写真、消耗品他) 9,892 ⑩ 立替金処理 1,000
計 845,892	計 850,365
平成12年度からの繰越金 1,669,431	平成14年度への繰越金 1,664,958
合 計 2,515,323	合 計 2,515,323
	繰越金内訳 郵便貯金 1,487,886 手持現金 177,072 計 1,664,958

上記のとおり報告いたします。

平成14年4月13日 会長 佐伯 益一 ㊟

財務委員長 鈴木 多喜男 ㊟

上記の決算書は監査の結果、適正と認めます。 平成14年4月13日 会計監査 塚田 勝 ㊟

〃 佐藤 玲子 ㊟



平成13年度 東京同窓会の動き

4月 7日(土) 編集会議(会報31号)
13:00 新潟県人会館

9月 8日(土) 編集会議(会報32号)
13:00 新潟県人会館

21日(土) 常任幹事会
13:00 新潟県人会館
大会案内状等発送

30日(日) 常任幹事会
13:00 新潟県人会館
・45回大会の件
(大会実行委員会発足)

幹事会
15:00 新潟県人会館
大会当日の役割の打ち合わせ

11月10日(土) 編集会議(会報32号)
13:00 新潟県人会館

27日(金) 会報31号原稿を印刷屋へ
14:00 第一印刷所

16日(金) 会報原稿を印刷屋へ
15:00 第一印刷所

5月14日(月) 会報の校正作業
16:00 第一印刷所

30日(金) 会報校正
17:00 中野

16日(水) 大会実行委員会 16:30
大崎ニューオータニ
・会場のホテルと打ち合わせ

12月22日(土) 常任幹事会
13:00 新潟県人会館
・会報発送作業
幹事会
15:00 新潟県人会館
・第45回大会の件

6月 2日(土) 東京同窓会第44回大会
14:00 JR大崎駅東口
・ニューオータニ イン 東京

2月 2日(土) 編集会議(会報33号)
13:00 新潟県人会館

7月 7日(土) 常任幹事会
14:00 新潟県人会館
・会報31号の発送

お便りの中から

順不同：敬称略



杵淵 政海 (高2)

今年こそは世情も景気も向上してくれるよう願っておりますが、どうなりましょうか？前回の同窓会報32号に会長殿の記事が沢山あり、中でも酒についてのご講釈を大変愉快地に楽しく読ませていただきました。

中野『百人衆』 山田 俊治 (高14)

東京新潟県人会報に店を紹介していただき、また部数も多く頂き有り難うございました。店の宣伝に使わせていただきます。会報を見たと言って来られるお客さんが多くなりました。今後ともよろしくお願いいたします。

母校校長 杉原 雅昭

村松公園の桜も満開を迎えておりますが、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

学校も年度始めで、入学式、新任式などあわただしい日々を過ごしておりますが、ようやく全て終わりホットしているところです。

さて ご依頼の原稿につきましては、ただマスを埋めるだけの拙文になってしまい、恥づかしい次第ですが同封致しました。取り計らいのほどよろしくお願い申し上げます。

六月の東京同窓会の盛会を心からお祈りしております。



お便りの中から

順不同：敬称略

村松町 佐藤 栄策 (旧中26)

松高東京同窓会のご活躍振りにつきましては町出身の同級生の武藤三郎さんから直接お話をお聞きしたり、又会報などを見せていただき、充実した処世ご活動の数々に日頃敬服しておるところであります。私たち故郷の同窓生としては全国各地に皆さんが母校の名誉を一身に担ってご活躍下さっている様子を聞かせていただくのが何より嬉しくございます。どうぞ皆様、今後共ご健康で活躍くださる東京同窓会もいよいよ発展、ご盛会となりますよう遙か村松の地よりお祈り致しております。

新潟市 五十嵐 喜作 (旧中27)

昨年はおかげさまで楽しい一泊二日だった。それにしても参加九人とは。理由はともあれ、「お前も齢なんだぞ」と痛感させられた。今年に期待したい。

会報の「酒」なかなかいい読み物だ。文章もいい。

「酒は無理に注ぐな、注がれた酒は残すな」の信条には同感する。文中、佐渡行軍の際、船中で酒を飲んだ話があるが、小生もお相伴になった記憶がある。しかし船酔いは直らず、両津から宿泊地の農学校(畑野)まで隊列から外れヨタヨタついて歩いていった思い出がある。

また「臥龍が丘とは？」の論文、よく纏めたと感心した。高卒組の活躍(誌面での)大いに意を強くするとともに旧中卒が居なくなっているのに気付く。

田村 ミツイ (旧女24)

いつも御苦勞様です。お役に立ちたいが老化も順調。この間の臥龍が丘、蒲原鉄道の女車掌ハナちゃんは私の街の人、奇麗で優しい制服ピッタリと懐かしく思いました。もう一人の車掌さんはブスでしたネ。

母が91才で亡くなりました。寂しい限りです。今年こそ、今度こそ出席と思い乍ら周囲の者が欠だとネ。

村松町 吉原 敦子 (旧女25)

深見さんより 女学校の制服の変遷について書いてくれるようにとの依頼を受けましたが、良い資料がありましたのでお送りします。私は昭和21年度卒ですが写真の「白いへちま衿の制服」で下は黒か紺のズボンでした。女学校は22年度に26回生を卒業させ、その後は学制改革により閉校式を迎えました。

文章を書くよりも写真で見たほうが分かり易いと思いますのでよろしく願いいたします。(㊤高女は大正4年4月、3年制の町立村松女子工芸学校として開校、同10年、4年制の町立実科女学校に昇格、同11年高等女学校となり、12年に始めて制服が出来た。)

新潟県人会広報委員 市川 昭二

「臥龍が丘は緑なり」新春号、ご恵与有り難うございました。佐伯益一先生主宰の文集を拝見する趣きでした。

私は先生と同様旧制中学の出身ですが、剣持さん(高3卒)の新制高校発足当時の思い出は当時の状況が鮮やかに活写されていて、女学生の一群が闖入して来た時のときめきなどが聞こえてくるようでした。

「懐かしき・あだ名」どこの学校にもあることでしょうか人間味、親しみのあるニックネームはいいものですね。背筋のピンと通った上背のある校長は「エントツ」というあだ名でした。見上げるような立派な方という尊敬も入っていました。後年高田中学の名校長となられた戸田正誠先生です。エントツと聞くと戸田先生を私は思い出します。「臥龍が丘とは？」会報の名の由来、よく分りました。十日町中学の校歌に「仰ぐ苗場の雄姿こそ…」とありましたが、その苗場が何処かに聳えているのやうとうとう知らずに卒業しました。昨年十日町高が始めて甲子園に出場したのでTVで応援しました。校歌は全く馴染みのない高校になってからの曲でガッカリ私が在学していた頃、野球部はなかったっけ。中学と高校は違うんだなと年を実感した次第です。有り難うございました。2002年もご活躍ください。

津川町 麒麟山酒造株式会社 齊藤 吉平

立派な「酒」の論文ありがとうございました。

やはり お酒は飲める人でないと酒の心は理解してもらえないと改めて思いました。

新津市 白倉 清熊 (旧中27)

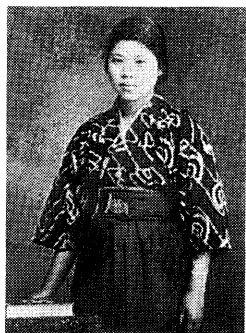
地元の会報を見たこともなく、東京の同窓会報を読んで楽しむ。妙な感じもする。いつも「臥龍が丘は緑なり」をご送付いただき感謝しています。

『昔海軍今海上自衛隊の柔道部の活躍』なる一書、贈呈。何かの役にたったら参考にして頂きたいと思います。松中の先輩、故杵渕政光先生(大正13年・第7回卒・講道館九段)の記事が数か所に載っているためです。

著者(旧海軍機関学校出身、海機、海兵、海自各教官を経て現舷友会々長・上村 嵐氏)が小生の海軍生徒時代(海機)の学年監事だった関係で少し手前味噌の感じもありますが柔道と海上自衛隊の現況というつもりで送ります。

※ 杵渕先生とは、故笠原昇先生の(講道館九段)のご紹介で昭和27～8年ころ二・三度お会いしたことがあり、海軍兵学校へ進んだ私と同級の中野博君(故人)の媒酌人も勤められている。宝仙寺での杵渕先生のご葬儀には二人で参列した思い出があります。高2回卒の杵渕政海氏は先生のご子息です。(※ 佐伯)

母校制服の変遷について (一)



袖は筒袖 前のバックルは校章



着物でも洋服でも良かった時代



線のないセーラー服 ねずみ色のくくり紐で結ぶ。手ぬぐいで作ったものを着ていた人もいた。(昭和3年～昭和13年まで)



当時のヘアスタイル
(昭和7年頃)



セーラー服、ネクタイ (昭和12年頃)

へちま襟の制服

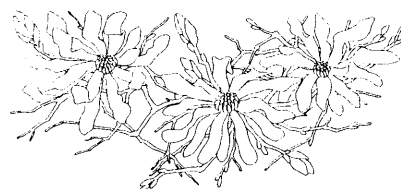


白いへちま襟の制服
当時はセーラー襟でもへちま襟でもよかった。
(昭和16年頃)

だいぶ前のことであるが、私は旧中・旧高女そして現在の高校に至るまでの学校の制服について調べてみたいと言ったことがある。それを聞いていた深見さんがよく覚えていて在村松の吉原敦子さんをお願いし吉原さんから今回深見さんを通じて写真を送って頂いた。

旧中から先にはと思っていたが、未脱稿なので先着順に紹介して行きたいと思う。90周年記念式の際、生徒さんに頼んで今の制服の写真を撮ったが失敗。制服のみでなく、どなたか戦前～今日の写真をお貸し願えれば幸いです。

(佐 伯)



頂上を極めない山行き

加藤 系一 (高7回)

公務員業リタイヤと同時に山仕事の話があり、毎年、春と秋2回の作業を兼ねた登山を楽しんでいる。今年で7年が経った。勿論、日当がつく。仕事の現場は飯豊連峰、北股岳(2024m)の山頂まであと1時間半ほどの所、中峰にある。加治川ダムを擁する加治川治水発電所に降雨量のデータを自動送信する無人雨量局がそれである。この作業行きは私の体力のバロメーターになっている。来年も大丈夫と私の体が言っている。

作業の内容は、図のように頑丈な波板鉄板でおおわれたカマボコ型の局舎、送信機器や必要工具が奥に常備されていて5~6人がかがんで入れるスペースがある。ここへ春と秋に出かける。春は分解して収納しておいた避雷針、ソーラーシステム、3分割した電柱、支柱線ワイヤ、雨量計を図のように組み立てる作業と局舎周囲のブッシュの刈払いである。秋は雨量をはかる必要がないし積雪で局舎が埋まり、外部の機材、機器が積雪の圧力で破損するのを避けるために分解して局舎に収納する作業である。

春は6月下旬~7月上旬に出かける。残雪の中にシラネアオイ、ツバメオモトの群生を見ることができる。中峰ではコシアブラの芽がふいている。残雪いっぱいの池塘では蛙がにぎやかに鳴き産卵している。大きなタカが羽音高く舞い上がり、地上には腹を食いちぎられた蛙が沢山散乱している。

車止めまではゲイトで遮断され一般客はまだ入山できない。湯ノ平までのいくつもの沢にかかる木橋やワイヤのつり橋はまだはずされたままで雪渓を渡るたびにひんやりとする。雪渓のアーチの頂点の厚さが10センチあれば踏み抜くことはない。経験から教わった。

毎年行っているがこんなこともあった。一昨年は積雪多く6月下旬は局舎が雪にスッポリ埋まっていた仕事にならず下山、7月上旬、再度出かけてようやく作業ができた。おかげで日当を2回貰った。

これは今年の春作業の体験である。車止めから湯ノ平の山小屋まで雨が降り続き1時間半の道のりで体の芯までぬれた。はるか下を流れる加治川上流、V字型の岩肌が続く左側は急斜面が迫る。足もとに注意して歩を進める。水量が増えて濁流となって太い倒木が岩肌にぶっかってにぶい音をたてながら流れ下って行く。時々、もっと強烈な高い音が連続して響き、ゴロゴロと鳴りながら白いかたまりが流れ下る。それは上流でくずれ落ちた雪渓の大きなかたまりで氷山のようなものである。地鳴りのよう

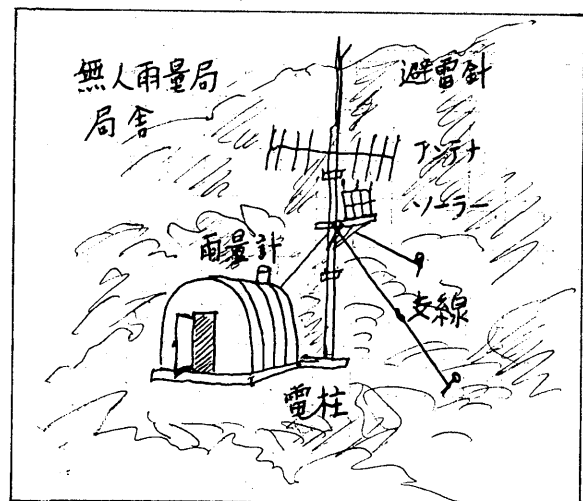
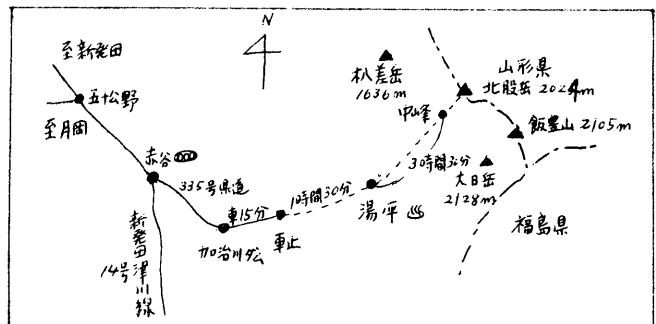
な雷鳴のような不気味な音である。ふだんは枯れ沢の小さな溝が滝になって通路に水のアーチをつくっていて何度もその下をすばやく通り抜けた。この日は山小屋に着くと皮肉にも雨がやんだ。すっぽり着替えて無料の温泉につかって飲む缶ビールは格別だった。翌朝、起床5時出発6時、中峰着9時30分、昼飯をはさみ10時~14時作業、下山、湯ノ平着16時30分、小休止、車止め着18時、ざっと、こんな時間になる。

秋は10月上旬~中旬に出かける。晴天ならば正面に飯豊山(2105m)、大日岳(2128m)を、眺めながら紅葉の中で作業をする。下山するときナラの巨木に寄り道をしながら舞茸にお目にかかることもある。

秋は日が短く曇天のときは峡谷沿いの道(湯ノ平から車止めまで)半ばからヘッドライトをつける。

この山の作業で、下界より、ひと足遅く残雪の早春を味わい、下界より、ひと足早く紅葉を味わっている。早春と紅葉を二度楽しむことが出来て幸せである。

飯豊連峰は縦走するのに適した山で北股岳のみ登山をする人は少ない。機会があれば、杵差岳(1636m)の話をしたい。これも仕事山で胎内水系の分水嶺である。(村松町在住)



傘寿をこえて

前赤山会々長 亀嶋 謙（中22）

私は いま83才になる。

旧制村松中学を卒業したのが昭和12年3月（1937）であるから実に60年前となる。

人間の寿命がどんどん伸びて来て80才前半位では今は長寿とは言わなくなった。然し、見渡すと一緒に歩いて来た人達で今、残っている人は四割位だ。

私達の経て来た時代は戦争が度々あった。医学上でも新薬が未だ開発されていない時代であったから戦病死とか、結核で亡くなる人が多かったのが要因であろう。

そんな中で元々身体の弱い体質であった私が今も生きているのは幸運とも云える。また運命があったとも考えられる。それよりも多くの方々のお陰であったと感謝の念で一杯である。60才台半ばになった頃から私は人間には晩年が人生にとって一番大事な時期だと思うようになった。知人が亡くなった報せを聞くと、まず最初にその人の晩年がどうであったのかということが悲しみより先に気にするようになった。それに付け加えると死に際が穏やかであったかどうか気になる。

人によっては脳震盪のような短期な死に方を望む人が多いが私は木の実が熟して自然に落ちるような死に方が

本当の死に方でありたいと願っている。とにかく晩年は穏やかに夫婦が欠けず、人生を味わいながら自然死することが望ましいと思う。これに加えて死後、あの人は温情のある良い人であった。もっと長生きしてもらいたかったと惜しまれる人が最高の人であると思う。

世の中には所謂、出世して社会的な肩書きがあったり資産を多く持っていて、あまり世間から慕われない人がいる。そういう人には私は少しも魅力を感じない。羨ましくも思わない。平々凡々ながら私は大満足して、一日、一日を送っている。

私の家には小さいながら庭があり、夫々の時季に花が咲き、実のなる木が多い。朝、起きると私は30分ほど見回り、芝生の中で5分位軽い運動を行う。せまくとも私には別天地で楽しみである。こんな生活が何時まで続くか分からぬが、今のところ最高晩年だと自分では思っている。

息子二人に孫四人もいる。一番上の孫が日本女子大の三年生で20才になる。本当に嬉しい。すべてのことに感謝の念をもって過ごしている。有り難いことである。

（2002.1 記）

ちょっと変った話

私が司会者になって『むねおくん、こういちくん キヨミさんの三人と座談会』をやることになった。するとマキコさんが「私もいれて～」と飛び込んで来た。これは大変なことになったなと思った。

しばらくすると、タカコさんが「わたしも～」と言いながら、のっそりと入ってきた。

ここで ハッと目が醒めた。変な夢を見たものだ。

大分前のことだが5～6人の集まりの時、座興に“ふくまでん・どうかつ・わいろ・さしゅ”を漢字で書いてみると言ったことがある。ひとつふたつは書けたが全部書けた者は誰もいなかった。勿論、私もその内の一人。漢字力の弱さを染み々と味わった次第。 一正解は巻末に一 （伯）

個展の御礼

小出 博三（高8回）

今年3月、私の有楽町交通会館での個展に際しましては、ご多忙中にもかかわらず大勢の方々にご高覧いただきまして誠に有難うございました。大変失礼ながら先ずは紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

東京同窓会の皆様のご健勝を祈念いたします。

兄の戦友

伊藤 勇五（旧中33回）

「今頃、太平洋戦争当時の話なんて」と言われそうだが、あの戦争によってわが伊藤家が受けた影響は大きかった。そして兄との関わりから去年まで、ご自身の戦後を終わらせずにいた方が居られたのである。

あの頃、村の人から「あなた方は七福神と一緒にだね」と云われた様に、私達は女1人、男6人の7人きょうだいであった。一番上が姉、次いで長男以下末っ子の私まで男が6人続いたのである。この男6人の中、五男を残して5人があの戦争に参加した。

その頃、“出すぞ6人の軍人”の見出しで、軍国の家として新聞に紹介され、カラ元気を出して留守を守っていた両親であったが、すでに5人を戦争に送り出している母は、心労と無理が重なって脳出血で倒れ、寝たきりの体になっていた。そんな折に役場から父の許へ、次男（庄馬）と更に四男（慶伍）の戦死の公報が届いた。二人とも「フィリピンのルソン島に於いて」とあった。然し遺骨も遺品もある訳でなく、父も家族も二人の戦死が信じられなかった。

やがて終戦、失意の家族のもとへ長男と私が復員した長男にも私にも母の姿はショックだった。倒れた事を知らされなかった丈に衝撃が大きかった。

終戦の翌年、父と長男の契めで私は村松中学校の四年生に2年遅れて復校した。その年の5月、北蒲原郡赤谷村の目黒さんと云う人から父宛に手紙が届いた。中身には「初めてご挨拶申しあげますが、こちらの庄馬さんとは戦友同志でした。色々ご報告をしなければならぬことが有ります。お線香を上げにお伺いさせて下さい」と書かれていて訪ねて来る日時が記されてあった。

その日、父と長兄が目黒さんを迎えた。私は学校がありお逢いする事が出来なかった。目黒さんが父達に話された事は要約すると次の様であった。

「庄馬さんとは共に新発田へ入隊した同年兵でした。その後、朝鮮の羅南、更にフィリピンのルソン島と一緒に、兄弟同様な仲の戦友でした。常々“死ぬ時は一緒に、二人とも生き残れたら言う事なし、若し片方だけが生きて帰れた時は、必ず相手の親御さんに報告に行く」と約束し合っていた。敵の反攻が始まってから戦況は次第に不利になっていったが、あの日はルソン島のタクボで二度に亘って容赦のない米艦の艦砲射撃を受けた後、進攻して来た敵の地上軍と激しい銃撃戦となった。その最中に、庄馬さんが被弾して倒れたのが分かった。直ぐ側へ駆け寄ったが殆ど即死状態の最後だった。そのまゝ10分か15分ほど交戦が続けたが、山の奥への撤収命令が出て庄馬さんを残したまゝ、後ろ髪を引かれる思いで退去せ

ざるを得なかった」……と云う事だった。

帰りしなに目黒さんは「自分が元気な限り3年か遅くとも5年おきには、必ず庄馬さんのお墓参りに来させて頂きます」と言っておられたという。

その後、父が61歳で亡くなり、跡を継いだ長兄も同じ61歳で死去、現在は長兄の息子（甥）が当主となっているが、目黒さんは父、兄、甥のそれぞれの代を通して次兄の墓参りを続けて来られたのであった。

時は移って平成元年、私は開発の仕事をするため単身村松で生活することになった。平成2年の秋、生家の甥から「目黒さんが4年振りに庄馬叔父さんの墓参りに来て行かれました」と村松の事務所に電話があった。

“そうだ！今は東京ではなく村松に居るんだ、目黒さんをお訪ねしよう”と思い付いた。次の日曜日、地図で確かめてから赤谷に向かって車を走らせた。

“庄馬の弟です”と先に手紙を差し上げていたので目黒さんは待っていて下さった。私を見るなり「面影がすっかりで庄馬さんに逢った様ですよ」と笑顔でそうおっしゃった。私は目黒さんが今でも次兄の墓参りを続けて下さっているご厚情に心からお礼を申し上げ、弟でいながら本日まで何のご挨拶もせず過ぎた事をお詫びした。

翌年の四月、きょうだい4人に生家の甥も加え、好天に恵まれ絶好の花見日和の村松公園に、目黒さんご夫婦をお招きした。そして夕方早めに、さくらんどう温泉で入浴、次いで夕膳を囲みながら庄馬兄の思い出を語り合い忘れられない一刻を過ごす事が出来た。

その後、私は年に一度は目黒さん宅をお訪ねした。平成5年に家内を亡くした後も、私は村松で単身生活をしていたが、平成10年、70歳になったのを期に娘が契めるので大和市に移った。目黒さんとのお付き合いも以後は年賀状の交換で無事を確かめ合う位になった。

昨年、甥から「今年も4年ぶりに目黒さんが庄馬叔父さんの墓参りに来られました。初めて奥さんも一緒にして、80歳を越えたら車の運転が不安になり車は止めました。思いは残りますが、今回で庄馬さんの墓参りも最後にさせて下さい。それで家内も一緒に連れて参りました。私ひとりの胸の中にあった戦後も終りにします。と云って帰って行かれました」と電話があった。

私は直ぐ目黒さんにお礼の手紙を書いた。ポストに手紙を投函しながら「うんとうんと長生きして下さい。庄馬兄も感謝しながら心底そう願っている筈です。本当に長い間、有難うございました」と胸を熱くして、ご夫妻のお顔を思い浮かべていた。

赤山会例会開かれる

旧制中学卒有志の集まりである「赤山会」の春季例会が4月3日市ケ谷の私学会館内「アルカデア市ケ谷」で会員20名が出席して開催されました。

例会は定刻午後1時、旧校歌「塵の巷を遠ざけて」の斉唱から始まり、吉田正平会長（25回）の挨拶後、事務局から過年度の会計報告があり承認された。

胃を全部切りとった最長老の佐久間精一氏（20回）が入院中の見舞いについて謝辞を述べ、次いで本年、喜寿を迎えた次の各氏にお祝いの金一封が贈呈された。

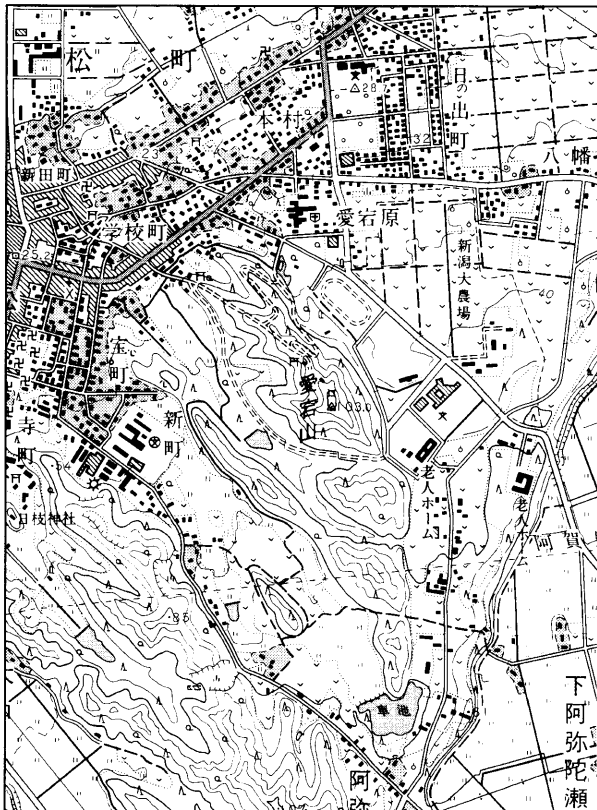
高橋忠夫（22回）佐伯益一（27回）笠原敬介（28回）
弦巻隆輔（28回）奈良泰夫（28回）八須民平（30回）

欠席者3人には郵送とのこと。

西山莊平（27回）吉田公男（27回）坂井健一（28回）記念写真撮影のあと、佐伯東京同窓会長の乾杯の音頭で懇親会に入ったが会場は終始和やかな雰囲気各テーブルごとに思い出話に耽り場内は割合と静か。年齢のせい。最後は、中締め、旧応援歌の合唱となり午後4時、各位の健康とご多幸を祈りながら、例会はめでたくお開きとなった。

それにしても最近お二人の先輩が亡くなられていることは誠に寂しいこと。全員、謹んで黙祷を捧げご冥福をお祈り致しました。

横山 信夫 様（旧中15回卒）平成13.11.4 逝去
山口甚三郎 様（旧中17回卒）平成14. 1.8 逝去



国土地理院、2万5千1地形図「村松」
（平成14年4月1日発行）

地図をみると……

- ①「赤山」は図の中央左側、母校の右に記されている新町の新の上にある低い山（山名は無記載）
- ②「勘六堤」は愛宕山の左にある池（池名は無記載）
「車池」は名称が記載されている。
- ③ 蒲原鉄道、村松・五泉間の線路や「むらまつ」の駅名が消えてしまった。

ちょっといい話

駅のホームの電車乗車口（特に地下鉄）に三つの輪が白く描かれている。これは三列に並んで電車を待ちなさいとの意であろう。始発駅ならともかく、これはおかしいと思う。混雑した車内から降りてくる人達にとってはまことに邪魔であろうし、真ん中にいる人は右か左に避けなければならない。混乱の元である。したがって、しるしを付けるならば中央部を少しあけて左右に二個ずつのの輪をつけるのが適正と考える。最近読んだ雑誌に、これと同趣旨の記事が載っていた。同感である。鉄道関係の皆さん一度考えてみられたら。（伯）

ちょっといい話

人間は元来歌が好き

中之条町あすなろ合唱団指揮者
剣持 常泰さん (68)
中之条町中之条

平均年齢75歳の同合唱団の指揮に携わり6年目。
今月末の発表会に向け、練習に余念がない。

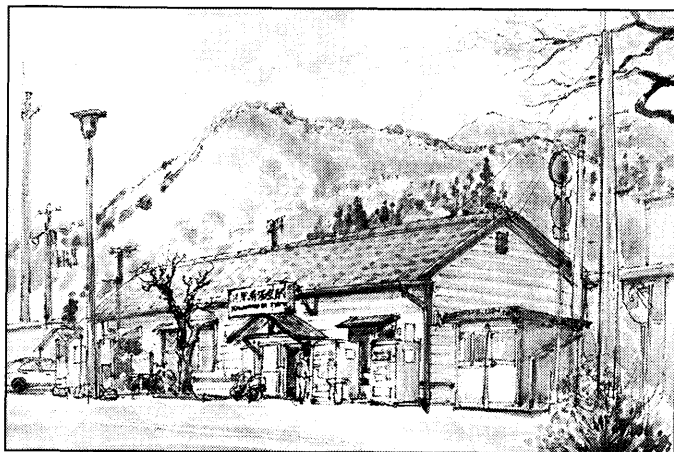
指揮役は自分たちの歌声を披露したいというお年寄りの声にこたえて受けた。

「人間はもともと歌うのが好き」というのが持論。
環境づくりとして、教材選びと接し方に腐心し60人の団員も、生き生きとしたハーモニーができるようになった。

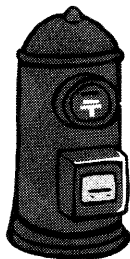
教諭として、社会教育主事として、学校長として、音楽を見つめてきたが「声の善しあしではなく、音楽は好きだけでいい」という。今後も、音楽を楽しむための環境づくりに携わっていきたいと意気込む。

(剣持 常泰さんは高校3回卒)

◎上の記事は平成13年11月17日(土)群馬県の上毛新聞『ビーふるワイド』に掲載されたものです。



JR吾妻線、川原湯温泉駅(群馬県)
(JR東日本、あなたの街の駅物語)



戦後「紙の消費量は文化のバロメーター」と言われた時代があった。紙はまことに粗悪であったが多くの雑誌、印刷物が巷に氾濫していた。活字に飢えていた国民は貪るようにこれに取りついていた。

然し今はどうだ? 当時に数十倍する夥しい印刷物の大攻勢である。そしてリサイクルなどと声高に叫ばれているが、私は今これを取り上げようとしているのではない。

郵便局で発行しているハガキの枚数のことである。行きつけの最寄りの郵便局で尋ねたが自分の局のことは分かるが全国の数については分からぬと言う。関係筋の電話番号を教えてもらったが、いくら電話しても話し中で通じない。丁度、都合よく4月10日付の朝日新聞に載った記事によれば平成12年度に扱った郵便物の総計は265億3千万通で、第三種と第四種の郵便物を除くと254億7百万通が普通郵便物となる。ハガキ(第二種)の枚数を約その半分と推定すると127億350万枚となる。これに年賀状を加えると年間、実に約130億枚の発行枚数となる。

これを受取った企業や家庭・個人はこれ程の数量を如何に処理しているのだろうか?

勿論大切に保存すべきものもあるであろうし、不要なものは破棄しているであろう。(封書は第一種)

現に私の手元には配達済の各種会議、パーティ等の出欠返信ハガキが山のように溜っている。半年後には纏めて梱包の上、焼却ゴミとして処分しているが書き損じたハガキは局へ持参すれば1枚5円で取り替えてくれる。リサイクル(再生)ハガキとして処理されると聞いている。

ならば何故このように大量な使用済のハガキを回収して再使用に役立てようとししないのか。他人に知られたくない住所や氏名も記載されているから、何ならそれを消して持参すればよい。局では専用の箱か籠を備えて置けば事たりることである。取扱いが不安と思えば行かなければいい。

JRでは使用済の乗車券の裏面の磁気を処理して再使用に当てている。ビールやジュースの空缶でも販売した会社が回収すべきであるというのが私の主張。郵政省とて例外ではない。今は総務省か。分かりづらい。(伯)

会報32号の記事の削除についてお願い

伊藤 正

会報32号の発行に際し、私のところに2頁分の手稿依頼がありましたので、図、付記を含めて丁度2頁分の手稿を整えて提供いたしました。

掲載された頁数が約束と違うので、仔細に閲読いたしましたところ、甚だ不本意な編集がなされていました。その旨担当者に申し入れをいたしましたが、はかばかしいご回答を得られず、この度原稿を取下げることになりました。

お手数と存じますが、既刊会報32号の下記の箇所を朱線にて削除抹消していただきますようお願いいたします。

記

1. 10頁 本文左欄 25行目から39行目まで15行 削除

削除理由 執筆者の了解なく原文から切り取り、ここにはめ込んである。

執筆者の意図に沿うものでない。

2. 11頁 右欄 15行目 肩書・氏名 削除

削除理由 原文冒頭(32号本文では欠落している)自分は歴史屋でないと断っている。勝手に肩書きを付されると誤解を招く。

3. 15頁 タイトル・氏名・本文 削除

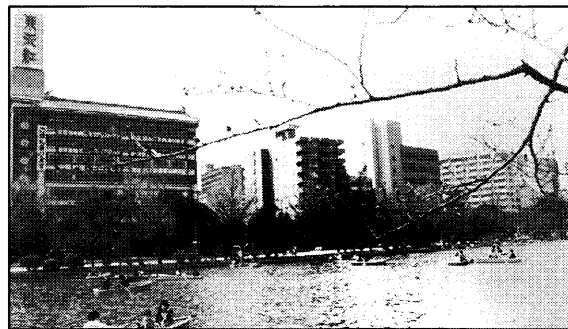
削除理由 ことわりなく文の切りはぎがなされ、文脈の乱れ、文字の誤用等、体をなしていない。自分の文とは認めがたい。

4. 15頁 左欄下 囲み、図のようなもの 削除

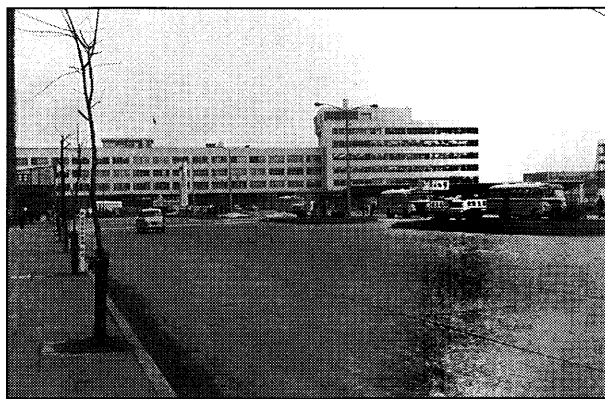
削除理由 印刷不鮮明。図として機能していない。しかも天地逆転に刷ってある。

5. 15頁 右欄下 囲み、付記 削除

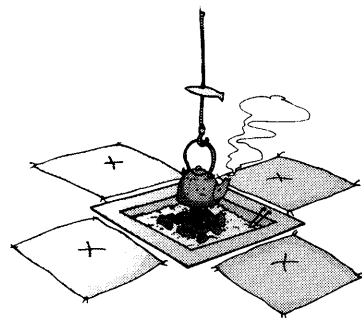
削除理由 入れておいた図の補足説明が欠落している。3行目、付録(おまけ)と書いておいたのが、付記(付け足し、補足)となっている。意味が違う。



上野・不忍池(左、東天紅)



新潟駅(昭和39年3月、写す)



{ 表紙写真について }

『蒲原のハザ木』 水彩画 岡 新一 氏(作)

1933年(昭和8年)新潟県三条市生れ 県立加茂農林学校卒 所沢市松葉町在住
1954年(昭和29年)国画会洋画研究所で基礎デッサンを学ぶ 1972年渡欧、現在無所属
新潟県展・長岡市美術展・国画会展などで受賞数回。東京都及び新潟県で個展(作品発表)
30回に及ぶ。1977年(昭和52年)所沢市にアトリエを新築、児童画廊を作る。
現在指導する子供は約300人。 現、東京新潟県人会交流委員会委員

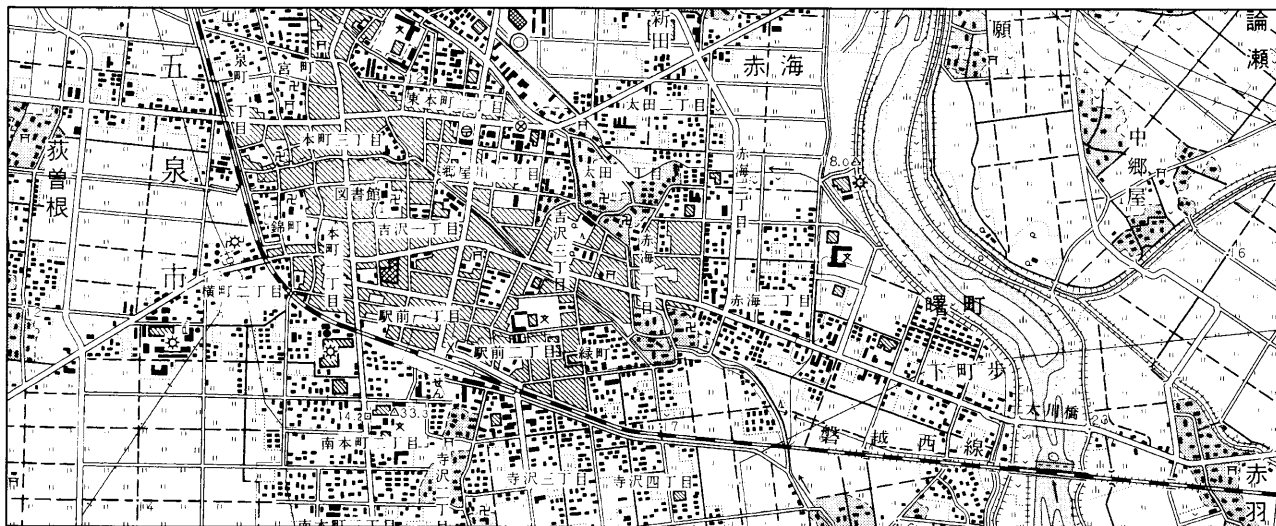
第45回大会実行委員

委員長 鈴木多喜男(高4) 副委員長 大橋 貞夫(高10)

委員 亀山 知明(高3) 渡辺 八郎(高3) 新井 康夫(高5) 沢出 赳允(高6)

八木又一郎(高7) 深見 洋子(高7) 塚田 勝(高8) 片柳 ムツ(高8)

間藤 謙一(高9)



国土地理院・2万5千分1地形図「村松」
(平成14年4月1日発行)五泉駅付近

◎13ページ、ちょっと変わった話の正解は、
伏魔殿・恫喝・賄賂・詐取

編集後記

外務省、NGO、ムネオ、BSE、偽装ラベル：が新聞やテレビ、週刊誌で連日報道され、冬季オリンピックも影薄く、ムネオハウスの方が注目されていた頃、三十二号の反省と三十三号の原稿集めを始めました。

観測史上最も早く桜が開花した東京では、三月二十一日には満開の桜見物を兼ねたお墓参り、初めての経験でした。地球温暖化が進む中、四月十五日には、八王子市で最高気温、三十二度を記録し真夏日となりました。

会報三十二号において、村松町の伊藤正様からの貴重な原稿を分割して掲載し且つ編集のミスもあり申し訳ありませんでした。執筆されました伊藤様はじめ会員の皆様には深くお詫び申し上げます。

会報作成にあたり、いろいろな資料、原稿写真等、皆様方からご協力を賜り有難うございました。編集委員の人達には少なからぬ出費と、労力・時間の無償提供を頂きながら出来る限り間違いの無いよう努めておりますが、素人でボランティアです。間違いもありますのでご指摘いただき、ご指導を賜わりながら改善して参りたいと存じます。

会員の皆様からの、寄稿・同期会・クラス会・諸情報や消息、住所変更などお寄せ頂き、広報誌面にしたいと願っております。皆様のご協力をお願い申し上げます。

(広報委員会)

平成14年6月 第33号

表紙の題名・題字は、佐伯益一氏 書(旧中27)

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

事務局 〒157-0061 東京世田谷区北鳥山 3-18-20 (八木又一郎 方)

電話・FAX 番号 03-3307-1048



校 歌		
旧・県立村松中学校	旧・村松高等女学校	新 校 歌
1. 鹿の巷を遠ざけて 雲たち迷う白山の 麓に立てる松の群 見よ凌霄の気を含む 3. 落葉をくぐる流れにも 岩石砕く力あり 清きは水の姿にて 強きは誰か心ぞや 5. それ英雄も人傑も 人の子吾等がたぐいなり 嗚呼松城の健男児 勇みて立つべし諸共に	1. 愛宕の山のむら松の 常緑色の常磐なる 操を胸に日の本の をみなの徳を磨かばや 2. 心は身はも真夏なほ 日に輝ける白山の 雲にもまさる清さもて 正しき道を進まばや 3. 其の名も高きこの里の 桜の花のうらうらと のぼる朝日に匂うごと 気高き姿保たばや	相馬御風 作詞 中山晋平 作曲 1. 普く照らす天つ日の 光を浴びて年々に 伸びてしやまぬ若松の ときわの志操いや堅き 学徒われらの在るところ 明朗の和気みなぎれり 2. 見よ質実に清純に 進取の生氣湧き溢れ 文化の花の咲くところ 希望は常に輝ける 道に我らを進ましむ 努めなんいざもろともに
応 援 歌	応 援 歌	応 援 歌
1. 緑濃き臥龍が丘に 轟くは我等が歓呼 若人の高なる血潮 たたえつつ春の日めぐる 2. いざ叫べ若人の誇り わななける力の腕 見よや君歓喜の胸に 輝くは永久の勝利	1. 臥龍原頭幾星霜 切磋琢磨の功を経て はなぐれないの香に匂う 誉れは高き松城の 健児が胸に血やおどる 2. 我等がえらぶますらおの 誉れは海の湧くがごと 望みは雲のゆくがごと 月の桂をなゆすりそ 栄えある名をぞとこしえ に	1. 松城健児六百が 祖国のために剛健の 大図をここに定めんと 送りいだせし我が勇士 覇権をゆずる事なかれ 我等六百ここにあり 3. 今壮快の晴れいくさ 見よ雄叫びの只中に 我等が望み一筋に 肩にぞかかる勇戦士 覇権をゆずることなかれ 我等六百ここにあり